

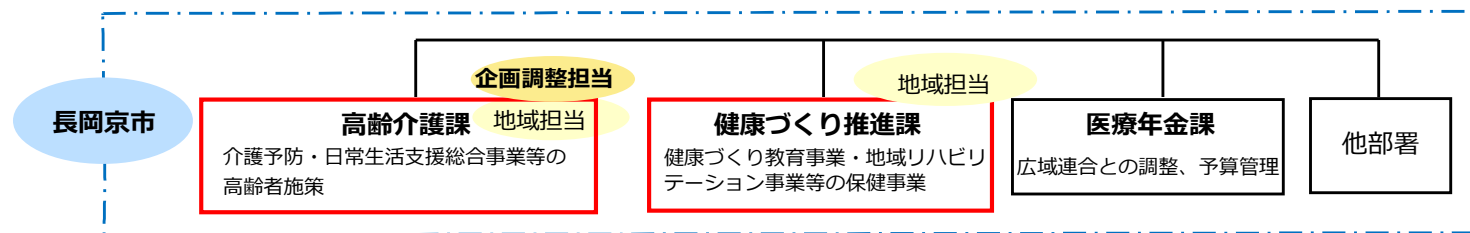
市の概況（令和6年4月1日時点）

人	口	82,258人
高	齢	化
率		26.5%
後	期	被
保	険	者
数		12,842人
日	常	生
活	生	活
域	数	4
数		圏
		域

ここがポイント

- **健康づくり推進課の多職種（保健師、管理栄養士、作業療法士及び理学療法士）と連携して、高齢者施策を行う高齢介護課の保健師が、企画調整を担当している。**
- 地域支援事業で、**医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会の方が関わっており、一体的実施事業開始前から関係性ができていた。**
- デジタル戦略課のスマホ教室や交通政策課の交通安全教室等において、フレイル予防をテーマに講演するなど、庁内で分野横断的な連携をはかっている。

実施体制



▼一体的実施前からの取組

後期高齢者健診

一般介護予防事業
での健康教育

課題

◆ 未受診者の状態把握

◆ 通いの場等、参加者の固定化

◆ フレイル啓発の内容の固定化

充実

充実

▼一体的実施での取組

健康状態不明者対策に加え、新たに低栄養高齢者へ
ハイリスクアプローチ

高齢者が**楽しめるポピュレーションアプローチ**を実施

- 内容の工夫→興味を引く測定会など
Ex. 普段知ることができない体の数値の測定会
- 名前の工夫
Ex. ○○フェスタなどイベント系のものにするなど



ここがポイント

- 長岡京市の健診受診率は53.6%（令和5年度実績）と**京都府内で1位**である。毎年50%近くを維持しているが、残りの50パーセントの市民の現状把握をKDBシステムで行い、予防的介入のできる75歳到達の健康状態不明者に対し、ハイリスクアプローチを行っている。
- **生活支援コーディネーターに対し、通いの場で行うポピュレーションアプローチの情報共有を行っている。**生活支援コーディネーターが通いの場に関与することにより、地域の課題を把握でき、市民との関係性づくりに生かすことができる。
- ポピュレーションアプローチを地域を巻き込んで行うことで、地域包括支援センターだけではなく、自治会、民生委員、老人クラブ等を自然と周知し、**支援が必要な人が孤立しないように努めている。**

京都府長岡京市

事業結果と評価概要(令和5年度結果)

		対象者数	参加者数	評価指標	状況(評価結果)
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者	36人	21人	①受診勧奨件数(市独自が作成したチラシを活用) ②個別指導実施件数 ③関係機関(健診、医療、介護等)に結び着いた件数	①36件 ②42件(実人数21人) ③3件(後期高齢者健診2人・地域包括支援センター1人) 訪問しても会えない方が多いため、個別指導できなかった方に対しては引き続き次年度も対象とする。
	低栄養	31人	24人	①BMIの変化 ②MNA(簡易栄養状態評価)の変化 ③体組成計計測による筋肉量の変化	①維持(±1kg)12人・増加(+1kg)10人 BMI20以上になった2人 ②改善6人・変化なし16人 ③増加7人・変化なし(±0)2人 介入中に転倒や持病の悪化で問題が複合化する方が複数発生した。初回面談から管理栄養士のみならず多職種に関わる必要があると痛感。来年度面接に複数専門職で対応することとした。
ポピュレーションアプローチ	健康教育・フレイル状態の把握	-	43か所 1081人(累計)	①啓発人数 ②啓発団体数及び実施回数 ③問診票実施件数 ④フレイル状況に改善が見られた件数	①1,081人 ②43団体・延56回実施 ③517件(16団体) ④維持・改善が見られたのは110件(1年間に2回フレイルチェックできた168件、65.5%となる。) 積極的にアプローチしたことにより教室を希望する団体や定期的な実施を希望する団体が増えているが、それに対応する医療専門職の確保が課題。参加者の協力も得ながら効率的に実施することを模索中。

課題・今後の展望

- ハイリスクアプローチで低栄養改善だけでは対応しきれない方が複数人あった。令和6年度からは、初回面接を集団での測定会とし、その際に複数の専門職で対応する。
- 今後も、高齢者が楽しんで参加できるフレイル予防の方法を模索し、多くの人々とつながりが生まれるようにしていきたい。
- 高い健診受診率を維持しながら、未受診者に対しては引き続きアプローチをしていきたい。